

令和5年度 学校評価

旭市立飯岡小学校

1 学校教育目標

「確かな学力、豊かな心、健やかな体を備えた児童の育成」

学校運営協議会委員
 **** 様
 **** 様
 **** 様
 **** 様
 **** 様
 **** 様
 **** 様

2 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

学校による自己評価の評価基準 : A(満足できる:肯定的評価90%以上)、B(ほぼ満足できる:肯定的評価70~89%)

C(やや努力が必要である:肯定的評価50~69%)、D(努力が必要である:49%以下)

学校関係者評価の評価基準 : A(適切な評価である)、B(ほぼ適切な評価である)、C(やや不適切な評価である)、D(不適切な評価である)

分野・領域	評価項目	評価の指標 (%)	自己評価	考察と改善に向けた取組	学校関係者評価		
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	
学校運営 教育課程	保: お子さんは毎日楽しく学校に行っている。	94.9 (+2.8)	A	保護者、児童、職員ともに約90%以上が「子どもたちが毎日楽しく学校に行っている」と回答し、学校生活が充実している様子がうかがえました。今年度は、感染症が5類に移行したことに伴い、ほとんどの学校行事を感染症拡大前に戻すことができました。運動会の応援団や修学旅行での班別行動が復活し、6年生は地域の皆さんにご協力をいただき「ゆめ・仕事びったり体験」(職場見学)を4年ぶりに実施することができました。 また、7月にはPTA役員の皆さんが「コロナで制限のある生活を強いられてきた子ども達に楽しいイベントを企画したい」という願いのもと、サッカー・野球・バレーボールのストラックアウトを全校児童が体験する「チャレンジスポーツ体験」を実施することができました。行事等の復活や特色ある教育活動の実現が肯定的評価につながっていると思われまます。 また、防災教育や高台避難訓練、海岸清掃、生活科の町探検、家庭科の調理実習やミシン学習、外部講師による合唱練習・理科の学習、読み聞かせ、飯岡小フェスティバルでの伝統芸能披露など、地域の皆様にお世話になり、充実した教育活動を展開することができました。	A	A	
	児: あなたは、毎日楽しく学校に行っていますか。	92.8 (+2.9)	A				
	職: 児童は毎日楽しく登校している。	93.3 (+6.7)	A				
	保: 学校は、地域と連携し、地域の人材を児童の学習や教育活動に生かしている。	92.2 (+0.2)	A				
学校運営 教育課程	職: 学校は、地域と連携し、地域の人材を児童の学習や教育活動に生かしている。	100 (± 0)	A				
	学校関係者による意見等 ・新項目を次年度も継続していただき効果を考察していただきたい。 ・学校行事がコロナ前に戻ってきたことは良いことですが、その内容は縮小傾向にあると思います。そのあたりはもう少し改善できることもあるように思います。						
	保: お子さんは授業が楽しく分かりやすいと言っている。	84.4 (+3.7)	B	授業については、保護者からの肯定的評価が昨年度より、やや上回ったものの児童からの評価は5.8%下回ってしまいました。今年度から職員の授業力を向上させるために本校の研究教科を道徳から算数に変更しました。算数科の授業研究をとおり、ノート指導やICTの有効な活用、問題を自らが見いだして主体的に伝え合う学習について、講師を招いて研修を進めてきました。職員の肯定的評価がやや向上したことから、職員研修の結果、わかりやすい授業を心がけている様子がうかがえます。授業におけるタブレットの活用率も昨年度の3.5%から7.4%に向上し、職員のICT研修に取り組んだ成果が出ております。しかしながら保護者や児童の評価との隔たりについては謙虚に受け止め、今後も授業力向上の研修に努めてまいりたいと思います。 宿題や自主学習等、家庭学習の習慣化と読書時間については、昨年度に引き続き本校の課題となっております。家庭での学習時間や読書時間は、全国平均を下回り(全国学力・学習状況調査から)、自主学習については継続している児童と取り組むことができない児童と二極化の状況が見られ、自主学習の内容を学校が具体的に提示していく方法も検討しなければなりません。 今年度も年間を通して、出題範囲を予告した本校独自のチャレンジテストを実施して、自主的に学ぶ習慣が身に付くよう力を入れてきました。満点を取った児童に賞状を授与したり、毎回の平均点を学校便りに掲載したりして、意欲付けをしてきました。今後も効果的な自主学習の取組を職員とともに考えていきたいと思ひます。	B	B	
	児: 先生の授業は楽しく分かりやすいですか。	85.6 (-5.8)	B				
職: 児童は授業が楽しく分かりやすいと言っている。	92.8 (+6.2)	A					
保: 宿題が終わったかを確認したり、学校で学習したテストやプリント等を確認して、児童の学習状況を把握している。	80.7 (-3.5)	B					
職: 宿題や授業で学習したテストやプリント等を確認して、児童の学習状況を把握している。	100 (± 0)	A					
保: 宿題や自主学習等、決まった時間に学習する家庭学習の習慣が身についている。	62.0 (+1.5)	C					
児: あなたは、宿題や自主学習など決まった時間に取り組んでいますか。	65.2 (-3.3)	C					
学校運営 教育課程	職: 児童は、宿題や自主学習等、家庭学習の習慣が身についている。	57.1 (-2.9)	C				
	児: あなたは、学校や自宅で本を読んでいますか。	57.4 (-4.3)	C				
	学校関係者による意見等 ・宿題や自主学習のタブレット活用について再検討願いたい。 ・できない児童が少しでも上昇傾向に向かい、できるようになったら「ほめてあげる」底上げの仕組み。 ・自主・自由は基礎・基本が有る先のことと思うので、日常の授業や家庭学習においても「学び方」を身に付けるような積み重ねが大切と思う。						
	生徒指導	保: お子さんは、分からないことや困っていることについて、先生に相談しやすい、話しやすいと言っている。	85.7(+16.4)	B	相談体制については、昨年度、保護者からの肯定的な評価が69.2%という結果で、今年度の重要課題となっております。今年度は、スクールカウンセラーから児童の話や聞く際の留意事項や傾聴の仕方等を年度当初に学び、6月と12月には、児童一人一人と教師が面談をする教育相談週間を設けました。児童一人一人が考えていること、悩んでいることを知ることができ、その後の指導や友人関係の助言に役立ったという職員の声が聞かれました。また、校長としては職員が児童にとって身近に相談しやすい存在にするために全校集会で職員を登壇させる場面をつくりました。児童には好評で全職員が最低1回は、全校児童の前に立ち、話をすることができました。 しかし、児童・保護者の肯定的評価に比べ、職員の肯定的評価は高く、認識に差がありました。この結果を真摯に受け止め、職員は児童のSOSに気付き、児童の心情に寄り添った相談体制を構築できるように努めていきたいと思ひます。	A	A
児: 先生は、分からないことや困っていることがあるとき、相談しやすい、話しやすいですか。		76.0(-2.0)	B				
職: 児童は、分からないことや困っていることについて、職員に相談しやすい、話しやすいと言っている。		100(+6.7)	A				
保: 学校は、お子さんの良いところは認め・伸ばし、ただすべき行動に対しては、真剣に対応している。		94.8(+6.2)	A				
児: 先生は、あなたの良いところは認め、ほめてくれますか。		86.2(+1.9)	B				
職: 学校は、児童の良いところは認め・伸ばし、ただすべき行動に対しては、真剣に対応している。		100(±0)	A				
学校関係者による意見等	学校関係者による意見等 ・児童と教員の皆さんが明るく接することが一番近道のように思ひます。 ・人は一人一人個性があり、それは大人である先生方もそうです。ですので、子ども達がどれくらい本音で先生と向き合っているかは、先生方の心の開き方が大きく関係すると思ひます。						
	道徳 特別支援教育	保: 学校はお子さんの個性や良さ・学習のつまずきを的確に把握し、適切な指導・支援をしている。	84.4(+4.6)	B	一人一人に合った指導・支援については、保護者からの肯定的な評価が84.4%という結果でした。昨年度よりは、やや向上したものの職員の認識と差が見られます。この結果については重く受け止め、児童の個性や良さ・学習のつまずきをしっかりと見極められるよう、職員一同、児童と関わる時間を今以上に確保していきます。また、担任や学習サポーターや教諭補助員、スクールカウンセラー等、児童と関わるすべての職員が児童についての気付きを共有し、対応できるように全職員で児童の様子を見守るよう努めていきます。 また、来年度も引き続き、「思いやりの木」の取組を継承し、全職員で児童のよさを発見して情報共有し、よい行いを称揚していきたいと思ひます。 挨拶については、地域の方から褒めていただく児童もおり、特に道路横断時に停車してくださった車にお辞儀をしている姿をよく見かけます。学校としても年間2回、計画委員会による挨拶運動を行い、児童が主体的に挨拶の素晴らしさを伝える活動を行ってまいりました。心のこもった挨拶ができた児童は、昼の放送で紹介しています。挨拶や言葉遣いについては、職員自らが模範を示し、すべての教育活動を通して、気持ちのよい挨拶と返事、丁寧な言葉遣いを指導していきます。	A	A
		職: 学校は児童の個性や良さ・学習のつまずきを的確に把握し、適切な指導・支援をしている。	100(+6.6)	A			
		保: お子さんは、挨拶やあなたにかい言葉遣いなどが身に付いている。	87.2(-0.5)	B			
児: あなたは、あいさつや丁寧な言葉遣いが身に付いていますか。		87.4(-0.1)	B				
職: 児童は、挨拶やあなたにかい言葉遣いなどが身に付いている。		71.4(+4.4)	B				
保: お子さんがきまりやマナーなどを守らなかった時は、お子さんが納得するまで話し合っている。		93.6(-4.6)	A				
児: あなたは、学校のきまりを守ることなどが身に付いていますか。		86.2(-3.8)	B				
学校関係者による意見等	職: 児童がきまりやマナーなどを守らなかった時は、児童が納得するまで話し合っている。	100(+6.7)	A				
	学校関係者による意見等 ・相互に明るく接するためにも普段の声かけは重要と感じます。 ・特別支援が必要な児童が年々増加している中で、個別に対応し、成長している姿を目にする。職員数の配置の関係もあるが、今後も継続していただきたい。						
	安全管理	保: 学校は、学校での怪我やトラブルがあった時、速やかに対応・連絡・指導をしている。	93.5(-0.3)	A	安全安心な学校づくりについては、施設環境整備や避難訓練、通学路の点検に力を入れてまいりました。保護者・児童ともに9割以上の肯定的評価をいただき、ありがたく思ひます。今年度は、夏季休業中に市役所や県土木事務所、警察といった関係機関と一緒に通学路の合同点検を行い、危険箇所や横断歩道の整備等、要望することができました。また、不審者侵入を想定した避難訓練も実施し、職員も対応方法を学ぶことができました。引き続き、毎月実施している安全点検を入念に行い、児童が安心して学校生活が送れるよう努めてまいります。 怪我の対応については、首より上の怪我については、即連絡、それ以外の怪我やトラブルについても迅速に保護者に伝えるように心がけてまいりました。保護者の肯定的評価は、昨年とほぼ変化がありませんでしたが、児童の肯定的評価は昨年度より下回っております。生徒指導の対応と同様に怪我やトラブルについて職員に相談しやすい環境、雰囲気作りが重要であると考えます。	A	A
		児: 先生は、けがやトラブルがあったとき、速やかに対応してくれますか。	88.0(-5.1)	B			
職: 学校は、学校での怪我やトラブルがあった時、速やかに対応・連絡・指導をしている		100(±0)	A				
保: 学校は、安全安心な学校を目指し、施設環境に留意し、防災教育に力を入れている。		94.8(+1.9)	A				
児: 学校は安全で、安心して登校することができていますか。		95.2(+0.4)	A				
職: 学校は、安全安心な学校を目指し、施設環境に留意し、防災教育に力を入れている		100(±0)	A				
学校関係者による意見等	学校関係者による意見等 ・子どもさんにとって一番大事なことであり、一つは廊下の左右区分を明確に使用する。						
	保護者・地域との 関わり	保: 学校は、家庭から連絡したことや相談等について、きちんと話を聞き、アドバイスするなど、速やかに対応している。	94.8(+2.7)	A	情報公開についての保護者からの肯定的な評価は、昨年度97.3%という高い評価をいただきましたが、今年度は6.3%下回ってしまいました。今年度は、これまで各学年が学級便りの中で配信していた月行事予定を学校便りで配信するようになったことで、昨年度より約10日間早く、翌月の行事を伝えるように改善しました。また、保護者連絡用アプリ「テトル」の運用も定着し、授業や行事の様子がカラーで鮮明に見られるようになりました。お便り等も配信することができるようになりました。学校ホームページの更新を行事の度に行い、学校としても努力を続けて参りましたが、保護者のニーズを把握し、ニーズに合った対応を心がけたいと思ひます。 また、昨年度から実施している学校便りの地区回覧については、各地区の区長様方のご協力のもと、継続することができました。学校の様々な情報を保護者の皆様や地域の皆様に発信していくことで、学校の様子が伝わり、保護者・地域の方との連携が生まれ、信頼が芽生えていくと考えています。 地域の人材活用に関しましては、今年度新たに黒板アート教室や理科の「私たちの生活と電気」の学習で地域の専門家の皆様にご協力をいただきました。また、100か所ミニ集会でいただいた地域の声を生かし、飯小フェスティバルでは、地域の幼稚園や保育園の発表の場を設定し、園児の発表に参観者が元気をもらいました。 児童の基本的な生活習慣については、学校としては課題に感じております。特に、課題の提出や登校時刻を守ること、自分の学習用具の管理をしっかり行うこと、学習規律やルールを守ることを身に付けさせたいと考えています。	A	A
		職: 学校は、家庭から連絡したことや相談等について、きちんと話を聞き、アドバイスするなど、速やかに対応している。	100(±0)	A			
		保: 食事、排便、洗顔、歯磨きの健康に関する習慣や、翌日の準備、整理整頓等の基本的な生活習慣が身に付いている。	85.9(+1.9)	B			
職: 児童は、時間や約束事を守ったりする習慣や、整理整頓等の基本的な生活習慣が身に付いている。		57.1(+4.1)	C				
保: 学校は教育方針や教育活動・行事等(授業参観・公開日)について、学校(学級)だより、学校ホームページで分かりやすく伝えている		91.0(-6.3)	A				
職: 学校は教育方針や教育活動・行事等(授業参観・公開日)について、学校(学級)だより、学校ホームページで分かりやすく伝えている		100(+6.7)	A				
保: 学校は、地域と連携し、地域の人材を児童の学習や教育活動に生かしている。		92.2(+0.2)	A				
学校関係者による意見等	職: 学校は、地域と連携し、地域の人材を児童の学習や教育活動に生かしている。	100(±0)	A				
	学校関係者による意見等 ・学校からの発信は十分と感ずるが、なお一層の工夫を心がけていただきたい。 ・1案として、私が関わらせていただいた音楽部の授業などは、後半の仕上げができたあたりの数回は公開授業などにして地域の方(子どもがすでに学校にいない)も、年配の方に観ていただくという時間も良いと思ひます。 ・地域住民に周知して、学校行事に参加してもらえるような広報活動の工夫。						